

沖縄市北部地区最終処分場周辺河川水中の有機フッ素化合物調査について

目的

- 県が実施した調査において、沖縄市北部にある産業廃棄物最終処分場内に溜まっている水（保有水）及び周辺地下水等から高濃度のPFOS、PFOA等有機フッ素化合物が検出された。
- 当該処分場周辺には与那原川（比謝川の支川）及び川崎川（天願川の支川）が流れていることから、当該処分場の河川への影響を把握するため、令和2年度に与那原川2地点及び川崎川6地点で有機フッ素化合物の濃度を測定した。（調査地点図参照）

結果

- 与那原川の2地点では、環境省が定めたPFOS及びPFOAの暫定指針値（50ng/L）を下回った。
- 川崎川6地点中4地点で暫定指針値を超過したが、当該処分場に最も近い地点（番号3）では34ng/Lと暫定指針値を下回った。
- 全調査地点中濃度が最も大きかった（3,100ng/L）のは、川崎川に流入する支流地点（番号8）であったことから、当該処分場とは別に何らかの汚染源が存在することが示唆された。

表. 調査結果一覧

地点番号	河川名	PFOS	PFOA	PFOS+PFOA	PFHxS
1	与那原川	26	12	38	18
2	与那原川	21	11	32	15
3	川崎川	26	8	34	17
4	川崎川	0.9	0.6	1.6	1.0
5	川崎川	32	42	74	28
6	川崎川	310	190	500	330
7	川崎川	45	38	84	34
8	川崎川	2,800	280	3,100	1,200

※単位（ng/L）

※測定値の取扱は、環境基本法に基づく環境基準の水域類型の指定及び水質汚濁防止法に基づく常時監視等の処理基準について（平成18年6月30日、環水大水060630001号、環水大土060630001号）に準拠した。

今後の対応について

- 今回の調査結果について、関係機関とも情報共有・連携を図り、引き続き河川水等におけるPFOS等濃度の実態把握に努めるとともに、原因となる汚染源の特定に向けて検討を進める。